蒲生野

令和５年度　第９号
令和６年３月14日発行
京丹波町立蒲生野中学校

３年生が卒業しました。午前中に降っていた冷たい雨も止んで、花道を通って校門を出るときには明るい光が差し、卒業生の前途を祝福してくれているようでした。コロナ禍を経て、久しぶりに全校そろっての卒業式。３年生が最後に歌った式歌「群青」も、全校生徒で歌った「旅立ちの日に」も、それぞれの思いがこもった感動的な歌声でした。巣立っていく３年生も、送り出す１，２年生も本当に立派だったと思います。

春は別れと出会いの季節。３年生が卒業して学校が少し寂しくなりましたが、またみんなで蒲生野中学校の新しいページを開いていきたいと思います。

本年度、最後の学校だよりとなります。保護者の皆様には、本年度も本校教育の推進に格別のご支援をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。これからも引き続き、保護者の皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

校長　　谷口　恭子

3年生を送る会

吹奏楽部の演奏、思い出映像と学年発表、そして先輩方への感謝を込めてメッセージを贈りました。

第77回卒業式＊おめでとう

みんなの幸せを祈ってるよ！

【答辞】

暖かい陽の光が降り注ぎ、桜の蕾も膨らみ始め、春の訪れを感じる今日。

私たち四八名は九年間の義務教育を終え、蒲生野中学校を卒業します。

私たちのためにこのような盛大な式を挙行していただき、ご来賓の方々、谷口校長先生をはじめとする先生方に心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの影響を大きく受けた一年生。入学式が終わった後も気軽に話しかけることができず、マスクをしていたこともあり、入学してしばらく経った後でも互いの顔を知ることができませんでした。

それでも距離をとりながらではありましたが、互いにコミュニケーションを取り合い、だんだん仲を深めていきました。異なる小学校の人たちが集まるので少し緊張しましたが、新鮮で楽しかったのを覚えています。

二年生の校外学習。自分たちだけでの活動ということもあり、困難に直面することが多々ありました。けれども、全員が班の一員であるという意識を持ち、共に行動し、個々で解決するのではなく、班員や知らない街の方々にも分からないことを聞き、協力して解決することで、最高の思い出を作ることができました。また、計画を立てて行動することの大切さや周りを見て行動することの大切さを学びました。目標を持って取り組むことで、見通しを持つことができ、行動力が身につきました。一人一人が周りを見ることでより深いコミュニケーションが取れるようになり、意見が対立した時も様々な立場や視野で物事が見られるようになりました。

家族の凄さを知った職場体験。学校生活で学ぶことができないことや、社会に出たときに必要になる礼儀やマナーなどを学ぶことができました。働く人から直接、技術や知識を教えてもらうこともでき、責任感を持って働くことの大切さや社会の厳しさを知ることができました。

修学旅行での平和学習。私たちは長崎原爆資料館を訪れました。被爆者の方にお話を伺い、改めて戦争の悲惨さや怖さについて学び、今、当たり前のように過ごしている私たちの毎日は、戦争の被害を乗り越え、平和な世界を作ろうとした方々のおかげであることに気づきました。また私たちは平和公園でこの被害を忘れないこと、そして、それらの思いを受け継ぐことを宣言しました。宣言した通り、私たちはこれからも平和の意味と戦争の怖さを伝え続けていきます。

最後の体育祭。学年の枠をこえてブロックで一致団結し、他学年との仲が深まりました。三年生が中心となって練習を進めていく中で、集団をまとめる難しさという課題に直面することもありましたが、試行錯誤しながらも最高の体育祭にすることができました。クラスで団結した文化祭。みんなで心を一つにして合唱を成功させ、仲間と協力してものごとを成し遂げる喜びを分かち合いました。意見がぶつかり、クラスがまとまらなくなってしまった時も、最後まで妥協せずに何度も話し合い練習を重ねることで私たちらしい文化祭をつくりあげることができました。

三年間頑張った部活動。仲間と礼儀を大切に、切磋琢磨しながら活動してきました。一年生の頃は先輩方についていくことに精一杯でしたが、顧問の先生や先輩方からのアドバイスを受けながら必死に練習に取り組むことができました。三年生になってからは、部活動の中心になって進めていく立場となり、部全体を引っ張っていくことの難しさを知りました。慣れない事ばかりで苦労もありましたが、部員とコミュニケーションを取りながら一つの目標に向かって努力しました。こうした苦楽を共にした部員と部活動ができたことが、私たちにとってかけがえのない思い出です。

在校生のみなさん。今年一年、私たち三年生についてきてくださって、本当にありがとうございました。最高学年として学校を引っ張っていく立場になり、プレッシャーを感じることもありましたが、みなさんの協力もあり乗り越えることができました。行事では、私たちの指示をきいてくれてとても助かりました。部活動では、みなさんの支えもあり最後まで諦めず、力を出し切ることができました。これからも頑張ってください。

一年生のみなさん、学校行事をしっかり楽しんで、普段から勉強をおこたらず、先輩として後輩の見本になるように頑張ってください。

二年生のみなさん、三年生になると最後の行事や受験など一度きりのことが増えていきます。最後に悔いが残らないように頑張ってください。また、最高学年として、一、二年生をまとめる立場になります。後輩と一緒に、よりよい蒲生野中学校にしていってください。

そして、家族へ。いつもどんな時も私たちのことを第一に考え、一番そばで支えてくれたのは家族でした。今まで十五年間しんどい時もたくさんありました。けれど、そんな時は相談に乗ってくれたり、励ましてくれたりしたからこそ立ち直れて、今があると思います。これから私たちは新しいステージへと進み、そこでも家族の支えが必要なことがあるかもしれません。その時は、また支えてください。今までありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

お世話になった先生方へ。入学当初は小学校とは違う環境で、不安でいっぱいだった私たちを温かく迎えてくださいました。時には厳しく、時には優しくしてくださったおかげで、ここまで成長することができました。本当にありがとうございました。

長いようで短かった三年間を共に過ごしたみんなへ。私たちの三年間にはたくさんの思い出が詰まっています。楽しかったこと、嬉しかったこと、悲しかったこと、辛かったこと、数え切れないほどの思い出がたくさんあります。辛かったことをみんなで乗り越えるたび、私たちは一つにまとまっていきました。それぞれの道に別れても私たちの絆は消えません。またどこかで必ず会いましょう。

さぁ、いよいよ別れの時です。私たちは自分で選んだ進路に向かって自分の力で進んでいきます。これから先、悩み、挫けそうになることもあると思います。そんな時、ここにいる仲間の顔や中学校生活を思い出し、乗り越えていきます。最後に、蒲生野中学校の益々の発展を心からお祈りし、答辞といたします。

令和六年三月十三日

答辞作成委員会